

| 項目 | | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | | 今後の学校改善に向けて | |
|--------------|----|---|-------|----|---|--------|---|---|
| | | 小項目評定 | 中項目評定 | 現況 | 中項目評定 | 意見・提言等 | | |
| 主体的・対話的で深い学び | 1 | 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めた。 | 2 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年担任という意識のもと、学級間の風通しを良くし、多面的に児童を見守ることができた。 ・クラスでは、行事だけでなく様々な場面でクラスのみならず考える時間(学級会)を作ってきた。授業の中でもペアやグループだけでなく、自分から話し合う相手を見つかる活動も取り入れている。 ・各学年が国語科において公開授業を行い、授業後には反省会を行った。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・2, 3については、研修が進んでいるようだ。 ・年度当初に自己目標を立てて、1年間取り組んでいた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々や学級での成功体験を多く経験させ、自己肯定感が高まる取り組みにどんどん取り組んでいく。 ・研究が継続して行えるように教員間で話し合い、実践の報告ができる時間を確保したり、研究先進校への参観や研修に積極的に参加したりする。 ・学習の中で、ペア学習やグループ学習を今後も続ける中で、自分の思いを発言できる伝え合える雰囲気作りや、授業研究を進めていく。 |
| | 2 | 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。 | 2 | | | | | |
| | 3 | 主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修に取り組んだ。 | 3 | | | | | |
| 道徳教育の充実 | 4 | 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる指導を工夫した。 | 2 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを許さないということを日頃から個人、学級指導だけでなく、学年学校全体で指導したが、実践力が身に付くよう取り組まなければならない。また、子どもたちの現状からどういった道徳教材が相応しいか考えた。 ・毎月の人権の日に、校内放送を利用し、意識向上を図った。 ・今年度から道徳が教科化され、教材も新しくなった。学年でしっかり教材研究、交流ができた。 ・全クラスが年に一回の道徳参観授業を行い、日頃の道徳教育の実践を公開した。 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもにどんな力がついたかではなく、どのように取り組んだかが大切。道徳の評価は、すぐに答えが出ないものだと思う。 ・子どもの内面をみとるといった視点を持つこと自体は大切。こつこつ実践を積み上げていくことが重要だと考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに身近な題材を取り上げ、今以上に自分事として考えさせたい。また、授業の中で、自分の考えを持ち、友だちと議論しながら、多くの視点を持つことができるように授業計画を立てていく。 ・研修会や協議会に参加し、「考え議論する」道徳科の実践に向けて、研鑽に励む。 ・年に一回の道徳参観授業だけでなく、普段の学級の取り組み等を発信していく。 |
| | 5 | 道徳の授業研究や資料の開発・整備・交流に取り組んだ。 | 2 | | | | | |
| | 6 | 積極的に保護者等への道徳の授業公開を行った。 | 3 | | | | | |
| 体力づくり | 7 | たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。 | 2 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育科授業の始まりには、簡単な体づくりの運動や体育の宿題を取り入れている。少し高い技能が必要となる単元では、スモールステップで習得できるように単元計画をしている。 ・体育科の学習やチャレンジマラソンでは、実際に子どもたちと共に楽しむことを意識している。 ・ランランラン月間やなわとび大会があることで、自主的に体を動かす姿が見られるようになった。 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・(体力テストの結果を受けて)体力づくりに関しては、あまり効果が出ていないようだが、指導の充実を図ってもらいたい。 ・昔と違って、順位を公表しないということが当たり前のように指導を続ける。家庭での継続的な取り組みが重要であることを伝えつつ、学校全体で取り組みを強化する。 ・全校での運動イベント(チャレンジマラソン、縄跳び大会等)は多くあるため、今後も継続していく。 ・体育の宿題をすることで、実際にどれくらい力がついているのか、3学期にもう一度体力テストを行いたい。 | |
| | 8 | 運動に親しむ環境づくりや体力づくりに努めた。 | 2 | | | | | |
| | 9 | 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲を育てた。 | 2 | | | | | |
| 指導改善 | 10 | 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善に努めた。 | 3 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指し、子どもたちにとって深い学びがある授業づくりをしながら、基礎的な部分の指導にも力を入れることができた。 ・校内研修、OJTをはじめ、若手教職員向けの授業力向上研修を数多く実施した。 ・研究授業を活発に行い教材開発、指導方法など授業力向上に向けて研修をした。 ・やるべき仕事が多く、処理が追いつかず、働き方改革は難しい状況だったように思う。 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・消灯時刻を決めて働いたり、定時退勤日を定め、その日に早く仕事を切り上げられるよう他の日の予定を立てたりするとよい。 ・働き方改革は、悩ましい問題だが、個人の意識付けも重要だと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に関わる研修や若手教員への指導技術継承を意識した研修に意欲的に取り組んだが、今後も授業研究を計画的に実施する。 ・今年度は実施できなかったが、夏休みの算数補充学習は効果的で結果も出ているので、次年度も計画していく。 ・働き方改革の取り組みをより実践的なものにしていくためには、仕事の効率化を図り、指導体制、指導方法の質が落ちないよう組織的な教育力の向上を行うことが必要である。 |
| | 11 | 教職員の指導力及び組織的な教育力の向上に努めた。 | 2 | | | | | |
| | 12 | 働き方改革の取り組みと教育活動の質の改善に取り組んだ。 | 1 | | | | | |

| 項目 | | | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | | 今後の学校改善に向けて | |
|-------------|-----------|--------------------------|--|---|----|---|---|--|--|
| | | | 小項目評価 | 中項目評価 | 現況 | 中項目評価 | 意見・提言等 | | |
| 育ちと学びを支える連携 | 家庭・地域との連携 | 13 | 保護者に対して、子育てに対する支援や研修会を行った。 | 3 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会では、「子どもの心の発達と周囲の関わり方について」の講演を実施した。例年よりも保護者の参加が多く、子どもとの関わり方を振り返るよい機会となった。 ・PTA講演会では、「ベップトーク ～子どもをやる気にさせるほめ方～」を実施した。60名以上の参加者があり、子どもへの声のかけ方や認め方等について研修することができた。 ・社会科や生活科、総合的な学習の時間等で、地域の方に協力いただき、学習を進めることができた。 ・地域の方の協力を得て、「ふれあい教室」を週2回開催することができている。他の学校にはない魅力的な取り組みである。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・これからは、自主防災組織を中心とした、学校と地域の防災面での連携や協力が必要である。 ・引き渡し訓練で（幼小同時の場合）は、小一幼の順で実施していただければありがたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの研修会や講演会を定期的に開催し、積極的な子育て支援や啓発につなげたい。 ・学校便りをはじめ、各種通信や学校ホームページで児童の活動の様子や行事の計画等を適宜発信していく。 ・地域（外部）ボランティアリストを作成し、学習・行事を精選しながらも有効活用できるように地域学校協働活動推進員の方と連携を取っていく。 ・今後も「ふれあい教室」を充実させていくために、ボランティアメンバーを新たに募集したり、活動内容をグレードアップしたりしていきたい。 ・現実的に起こりうる緊急避難にも対応できる力をつけるために、3学期の避難訓練は、事前予告なしで実施していく。 |
| | | 14 | 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用に努めた。 | 3 | | | | | |
| | | 15 | 防災教育の推進と安心・安全な学校づくりを進めた。 | 2 | | | | | |
| | 保幼小中の連携 | 16 | 子どもの校種間交流や教員の出前授業等、積極的な連携に努めた。 | 3 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・1年生活科「秋祭り」では、保幼小での交流ができた。1年生の子どもたちが、持っている知識や経験を元に園児たちをリードしていた。 ・夏季休業中に幼稚園の先生方を講師に幼小連携についての研修会を行った。幼稚園のことについて未知のことが多く、今後の小学校教育にあたって大変参考になった。 ・幼稚園の年長児を対象にレゴブロックを使ったプログラミング体験を2回実施した。タブレットを使い、巧みに操作し、順序よくプログラムする園児を見て驚いた。今後も継続して交流していきたい。 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校園内のスムーズな引き継ぎを期待する。 ・校種間交流は、中学校区内の校園全体で考えていかなければならないと思う。 ・1年生だけでなく、6年生と園児の交流を考えてはどうか。学校のリーダーとしての自覚も高まると思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小の関わりは少ないと感じる。幼稚園や保育園の先生方は、子ども同士の交流を期待されていると思う。5・5交流などを通して、子ども同士だけでなく、教師同士も関係を深めていきたい。 ・中学校区内に限らず、他校種に赴く機会を重視し、校区研修会での交流がその場だけのものにならないように指導法の改善に努めたい。 ・今年度のように、夏季休業等を利用し、保幼小の先生と一緒に研修する機会を増やし、共に学んでいきたい。 |
| | | 17 | 校種間の合同研修会や教育内容等の交流に努めた。 | 2 | | | | | |
| | | 18 | 校種間の授業公開、カリキュラム研究に取り組んだ。 | 2 | | | | | |
| 組織体制の充実 | 生徒指導体制の充実 | 19 | いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めた。 | 2 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止啓発やビデオ視聴等で、日々の生活の中から、自分のしていることがいじめにつながっているということに気づいている子どもが多くなってきた。 ・学校での出来事を保護者に報告し、家庭と学校が協力して子どもたちを育てることに努めている。 ・生徒指導、いじめ等の連携は迅速にできていた。教育相談についても、各関係機関や家庭とも協力しながら進めたが、まだまだ努力する必要があると考えている。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・パラボランテナのように見聞を広くし、人権感覚を研ぎ澄ませてほしい。 ・いじめ防止啓発の「のぼり」作成の取り組みは良い。 ・介入の仕方は難しいが、さらに地域の団体や児童委員を使ってほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各担当、管理職への報告、連絡、相談をより一層強化し、よりよい指導を行えるよう、引き続き児童支援を行ってきたい。 ・スクールカウンセラーへの接続や運用について、担当者が窓口となり一本化できている。今後は、さらに組織的に対応していく。 ・教育委員会（児童生徒支援課等）をはじめ、各関係機関との連携を密にし、予防、早期発見、早期解決に努めていきたい。 ・「各関係機関との連携が必要」と言いながらも、詳細について不勉強の部分もある。児童相談所、子ども発達相談センター、教育相談センター等、それぞれの役割や連携について研修を実施していく。 ・今回一定の評価は、いただいたが、学校としてはまだまだ見直しを含めてしっかりと取り組んでいく必要があると感じている。 |
| | | 20 | 生徒指導・教育相談体制を確立し、組織的に推進した。 | 3 | | | | | |
| | | 21 | 家庭・地域・関係機関との連携による指導に努めた。 | 2 | | | | | |
| | 特別支援教育の充実 | 22 | 支援を要する児童の個別指導計画の作成と活用に努めた。 | 2 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・算数を中心に、学校生活支援員の先生にも指導していただき、個別にも対応していただいた。 ・算数では、毎時間のはじめに、計算練習の時間をとり、習熟に努めた。 ・個別の指導計画にしたがって、短中長期的視野に立ち、支援を継続している。 ・子どもや保護者が安心して相談できるように、スクールカウンセラーを積極的に活用し教育相談の充実を進めた。 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談センターや子ども発達相談センター、少年センター等と連携した個別の支援がなされている。 ・教師間で個別の指導計画をしっかりと引き継ぎ、交流して行ってほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育のユニバーサルデザイン化（わかりやすい授業、人間関係づくり等）に今後も取り組む。 ・特別支援コーディネーターを中心に、個別の指導計画の見直しや特別支援アセスメントを更に進める。 ・学校生活支援員の先生方と協力し、計画的、積極的な学級支援を行っていく。 ・全職員の特別支援教育の専門性を高め、特別支援教育を組織的、計画的に進める。 |
| | | 23 | 組織的・計画的な特別支援教育体制を確立した。 | 2 | | | | | |
| | | 24 | 関係機関と連携した相談体制の充実に努めた。 | 3 | | | | | |
| 学校満足度 | 25 | 児童は学校に満足している。（アンケート結果より） | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校満足度（約80%）や自己肯定感（約60%）は、ここ数年間、微減し続けている。これを高める必要がある。 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校満足度や自己肯定感を高める取り組みを積極的に行ってもらいたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域、学校が連携し、安心、安全、自由なよりよい学校をめざしていく。 | | |